

すくすく絵本だより

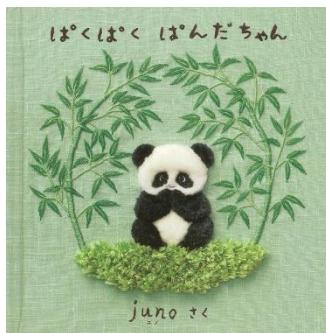


2月号

逆瀬川あゆみ保育園 子育て支援すくすく

本多由香 2026.2.2

皆さん、絵本は好きですか？絵本には沢山の魅力が詰まっています。今年度は、絵本に関する書籍を活用しながら《絵本について》ちょっとお伝えしていきたいと思います。



2月の絵本紹介



『ぱくぱくぱんだちゃん』

j u n o (ユノ) 作・福音館書店

刺繡作家さんが手掛けた絵本です。パンダや笹が立体的で、ページをめくるたびに、ついつい触りたくなります。お話としては、パンダが笹をぱくぱく食べる…というもので、簡単な内容ですが、コロンとした愛らしい姿に、とても癒されますよ。日本には、パンダがない状況になり、実物のパンダは見られなくなりましたが、絵本でパンダを感じられたら…と、今回紹介させてもらいました。

『ゆきのこえ』

おーなり由子文／はたこうしろう絵・講談社

この絵本は、まさに雪を堪能できる絵本です。雪あそびをする経験が、最近はなかなかないかもしれません、雪の楽しさを絵本を通して感じられるのでは？と思います。雪の寒さよりも、楽しさが強く感じられ、読んだ後は気持ちが温かくなります。おーなりさんと、はたさんのコンビでの絵本は他にもありますが、どの絵本も季節を全身で感じられて、おすすめです。

【子ども時代はとても短いのに、一生つくづく脳の働きや、感性が養われる、いちばん大切な時代で、子どもが成長してしまってからでは、決して取り戻す事のできない時代なのです。】
～『心に緑の種をまく』渡辺 茂男 岩波現代文庫より～

子育て中は、その日々が長く思われ、しんどく感じられる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、人の一生を考えると、子ども時代というのは、実は、ほんの少しの時間です。そして、その間に子どもは沢山の事を学び、それを一生に生かしていくのです。まさに人生の黄金期！この吸収のいい時期に、絵本を楽しむこと、それは、とても有意義な事だと思います。成長後には取り戻す事は出来ないこの時期ならではの感性。この感性で、たっぷり絵本を楽しんで欲しいと思います。その為には、絵本を楽しめる環境が必要であり、それを作るのは大人の役割だと言えます。興味を示す時期は、個人差もありますから、いつでも絵本に親しめるような環境だけは用意して、後は子どもの気持ち次第で…と出来るといいですね。

